

医療法人橘会 東住吉森本病院 地域医療連携センターだより

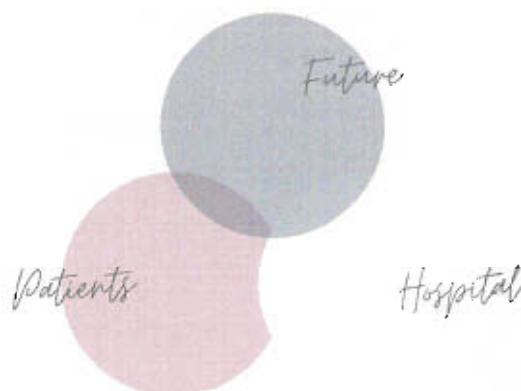
発行者：寺柿 政和/事務局：地域医療連携センター・広報委員会

新年度も3か月、第一・四半期が過ぎました。最新のデータによれば、赤字の民間病院は全体の半分以上、6割から7割という報告も見られます。特に急性期病院は慢性期病院に比べてより深刻な状況です。病床稼働率を上げて維持しながら、新入院患者数を増やす—このミッションをクリアしなければなりません。そのためには地元で発生する患者さんを如何に受けて診療に結びつけるかが非常に大事になってきます。チャンネルは3つ。救急・紹介・外来です。一方受診者(患者さん)側から見ると地域住民の方が中心ですが、元々住んでいる人々の他に、近年当地域では高齢者施設やサ高住(サービス付き高齢者住宅)が増えています。既に現在でもそのような高齢者が救急や紹介で受診しておられますが、今後増えていくと推測されます。地域の開業医の先生方に加えて、施設の管理医・嘱託医の先生方とも連携が必要と考えます。記録的に短かった大阪の梅雨が明けて、いきなりの真夏のような暑さで、今年も熱中症が増えると推測されます。夏場に流行するCOVID-19感染症にも気が抜けません。感染対策も確実にこなっていきましょう。

TOP MESSAGE



院長 寺柿 政和



第63回地域医療介護連携推進研修では、当院における認知症診療の取り組みについて発表いたしました。診療は外来を中心に行っており、診断後は環境調整や非薬物的治療を基本としつつ、必要に応じて薬剤を導入するという方針を取っています。現在の課題として、初診予約が約1か月待ちと長くなる傾向にあり、また、環境調整や薬剤導入のちに紹介元へお返しする際、薬物治療の見直しや環境調整の再考といった長期的な戦略が立てにくい点が挙げられます。ディスカッションでは、長期フォローアップ外来を求める声も多く寄せられました。現体制では再紹介に時間がかかるなど、改善すべき点も多くありますが、今後は地域の先生方との連携を一層強め、地域全体の認知症診療体制の向上を目指してまいります。予約取得の遅れにつきましては、ご迷惑をおかけしており、この場を借りてお詫び申し上げます。今後ともご指導ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

Community Care Workshop Report

地域医療介護連携
推進研修報告



脳神経内科 田中 眞梨江

Message

Message from the New Department Head

就任あいさつ



消化器内科
部長 堀田 潔

2025年4月1日より、消化器内科部長を拝命いたしました堀田 潔と申します。2002年に岐阜大学医学部を卒業後、大阪市立大学医学部附属病院消化器内科に入局し、市中病院にて内視鏡診療を中心に研鑽を積んでまいりました。いくつかの関連病院を経験してきましたが、東住吉森本病院には研修医時代を含めて通算4回、約15年勤務しており、特に愛着のある病院です。

当科は常勤医13名の体制で、多様な消化器疾患に積極的に対応しております。2021年に開設された内視鏡センターでは、上下部および胆膵内視鏡による検査・治療を数多く実施し、高画質細径スコープや鎮静法を用いた、苦痛の少ない検査も追求しています。

検査予約は地域医療連絡室への電話のみで可能です。下部内視鏡は事前外来なしで対応可能、緊急検査も極力お受けしています。

今後も地域の先生方との連携を大切にし、患者様に安心を届ける医療を提供してまいります。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

Infection Control

感染制御
No.37

■外来診療施設と病院の感染対策連携

新型コロナウイルス感染症の流行により、新興感染症への対応について様々な課題が浮き彫りとなり、外来診療施設と病院の連携の重要性についても改めて考えていく必要が出てきました。2022年度の診療報酬改定で「外来感染対策向上加算」が新設され、地域の基幹病院と外来診療施設の連携が進んでいます。

▼当院の取り組み

当院では東住吉区、平野区に所在する外来診療施設、東住吉区医師会と感染対策向上加算に関連する連携を結んでいます。主な活動内容として年に2回開催される合同カンファレンスの参加、診療所を中心としたサーベイランスシステムを使用したデータ集積、訪問ラウンドなどを行っています。

▼活動内容

- ・外来診療施設、病院 共同カンファレンス
(約100施設が参加)
- ・新興感染症に対応した感染対策訓練
- ・診療所版J-SIPHE『OASCIS』を活用したデータ集積
- ・日常的な感染症、感染対策に関する相談 など



新型コロナ流行時には相談先がなく、手探りで感染対策を進めた施設も多かったのではないのでしょうか。外来診療施設と病院が連携し、顔の見える関係を築くことで、感染症に関する相談や情報共有がしやすくなります。役割の違いを活かして活動を進めることで、地域全体の感染対策の推進を目指しています。

感染防止対策室 室長 荻田 千歌

■中学生を対象としたがん教育活動報告

6月13日、ご縁があり、大阪市立加美中学校の全校生徒を対象に、がん教育の講話を行いました。中学生向けのがん教育は令和3年から必修化され、「健康教育の一環としてがんに関する正しい理解と、がん患者やその家族など、がんと向き合う人々への共感的な理解を深めることを通じて、自他の健康や命の大切さを学び、共に生きる社会の形成に寄与する力を育むこと」が目的とされています。今回は「がんを正しく理解しよう」をテーマに、①がんの基礎知識、②日本のがんの現状、③予防と健診、④治療における対話の重要性（人生会議）、⑤患者の想いと共に生きる社会についてお話ししました。生徒の皆さんは熱心に耳を傾け、講話後のアンケートでは86%が「学べた」と回答。「生活習慣を見直したい」「がんは他人事ではないと感じた」といった感想も多く寄せられました。今後も地域でのがん教育に取り組んでまいります。



看護部 副部長
緩和ケア認定看護師 江口 由紀

Palliative
Care

緩和ケア
№.37



Community
Colors

地域のいろどり
№.15

■地域住民向けイベントへの参加

5/25(日)、矢田駅前商店街で開催いたしました『3世代で行ってQ! こども～高齢者まで体験型イベント』に、東住吉森本病院として、看護師・理学療法士・作業療法士・管理栄養士・地域連携担当で参加いたしました。今回、企画・運営から参画させて頂き、地域医療支援病院として、地域住民の健康づくりの啓発・促進に関わることができました。今後も積極的に「地域づくり」に多職種で関わっていきます。

地域医療課 課長 杉井 健祐

■2025年度 登録医総会・南部地区医療講演会のお知らせ

開催日：2025年11月15（土）

開催場所：都シティ大阪天王寺

登録医総会：17：00～17：30

南部地区医療講演会：17：30～19：30



■ 臨床研修病院の理念・基本方針

【研修理念】

病める人の尊厳を守り、医学・医療の果たすべき社会的使命を自覚し、適切な全人的医療をチームのメンバーと協力しながら提供できる医師を目指します。

【基本方針】

次の1～6のような資質を備えた医療人を要請する。

1. 人間性豊かな医療人
2. 医療全般にわたる広い視野と高い見識を持つ医療人
3. 患者の立場に立った医療を実践する医療人
4. チーム医療のできる医療人
5. 生涯学習をする医療人
6. 地域医療支援病院としての責務を自覚し、地域医療に貢献する医療人

Clinical Training
Hospital

臨床研修病院



■ 病院の理念・基本方針・患者さんの権利

【病院理念】

1. 患者さんの立場に立った、対話のある医療を提供するために努力します。
2. 地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
3. よりよい、サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

【基本方針】

1. 「患者参加型」の安全で質の高い医療を提供します。
2. 地域簡潔型の医療サービスを提供します。
3. 地域の予防医療の啓蒙に貢献します。
4. 自己実現が出来る職場環境の確保を目指します。

Philosophy

病院理念

患者さんの権利

1. 個人の尊厳の保持
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 十分な説明を受ける権利
4. 検査・治療を自ら決定する権利
5. 医療について知る権利
6. プライバシーの保護
7. セカンドオピニオンを受ける権利

医療法人橘会 東住吉森本病院 地域医療連携センター
地域医療機関・施設さま専用 お問い合わせ先

メールアドレス：m_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

受付時間 平日 9：00～20：00

土曜日 9：00～17：00

Community
Liaison Center

地域医療連携センター
センター長 大場 一輝